【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成21年6月25日(2009.6.25)

【公開番号】特開2007-304328(P2007-304328A)
【公開日】平成19年11月22日(2007.11.22)
【年通号数】公開・登録公報2007-045
【出願番号】特願2006-132444(P2006-132444)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｂ　13/06　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　17/02　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/225　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｂ　13/06
Ｇ０３Ｂ　17/02
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｂ
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成21年5月8日(2009.5.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
接眼部と、
可動レンズを保持するレンズ保持部材と、
前記レンズ保持部材を光軸方向に移動させて視度調節を行う視度調節機構と、
前記レンズ保持部材を光軸方向に移動可能に収納し、開口部が設けられたファインダケースとを有し、
前記ファインダケース内には、光軸方向に前記可動レンズより接眼部側である第１の空間と光軸方向に前記可動レンズより接眼部側でない第２の空間とがあって、前記レンズ保持部材を光軸方向に移動可能端まで移動させた状態では、前記第１の空間及び前記第２の空間のいずれか一方は前記開口部から露出されないことを特徴とするファインダ装置。
【請求項２】
前記レンズ保持部材を光軸方向に接眼部側の移動可能端まで移動させた状態では、前記第１の空間は前記開口部から露出されず、前記レンズ保持部材を光軸方向に接眼部側でない移動可能端まで移動させた状態では、前記第２の空間は前記開口部から露出されないことを特徴とする請求項１に記載のファインダ装置。
【請求項３】
前記レンズ保持部材を光軸方向に接眼部側の移動可能端まで移動させた状態で前記開口部から露出される前記第２の空間の光軸方向の幅と、前記レンズ保持部材を光軸方向に接眼部側でない移動可能端まで移動させた状態で記開口部から露出される前記第１の空間の光軸方向の幅が等しいことを特徴とする請求項２に記載のファインダ装置。
【請求項４】
前記開口部を塞ぐ蓋部材を有することを特徴とする請求項１ないし３のいずれかに記載のファインダ装置。
【請求項５】

前記開口部の前記光軸と垂直な方向の大きさは、前記可動レンズの直径の寸法に応じて決定されることを特徴とする請求項１ないし４のいずれかに記載のファインダ装置。
【請求項６】
前記開口部の前記光軸と垂直な方向の大きさは、前記可動レンズの直径の寸法と同程度であることを特徴とする請求項５に記載のファインダ装置。
【請求項７】
請求項１ないし６のいずれかに記載のファインダ装置を有することを特徴とする撮像装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
（発明の目的）
本発明の目的は、ファインダケース内に複数の空間が存在する場合においても、開口部の数を増やすことなく、ファインダケース内に入った埃を簡単に取り除くことのできるファインダ装置および撮像装置を提供しようとするものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記目的を達成するために、本発明は、接眼部と、可動レンズを保持するレンズ保持部材と、前記レンズ保持部材を光軸方向に移動させて視度調節を行う視度調節機構と、前記レンズ保持部材を光軸方向に移動可能に収納し、開口部が設けられたファインダケースとを有し、前記ファインダケース内には、光軸方向に前記可動レンズより接眼部側である第１の空間と光軸方向に前記可動レンズより接眼部側でない第２の空間とがあって、前記レンズ保持部材を光軸方向に移動可能端まで移動させた状態では、前記第１の空間及び前記第２の空間のいずれか一方が前記開口部から露出されないことを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明によれば、ファインダケース内に複数の空間が存在する場合においても、開口部の数を増やすことなく、ファインダケース内に入った埃を簡単に取り除くことができるファインダ装置または撮像装置を提供できるものである。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
また、図４のように、レンズホルダー３の移動可能量Ａが、レンズホルダー３本体の前後方向の幅Ｂよりも設定値Ｃ未満の範囲で大きいとする。もしくは、図５のように、レンズホルダー３の前後方向の移動可能量Ａが、レンズホルダー３本体の前後方向の幅Ｂよりも小さいとする。これらの場合は、掃除穴７の光軸方向の大きさ、つまり両端が以下のよ

うに設定される。つまり、掃除穴７の前側の端が、レンズホルダー３を最も後方に移動させた場合の該レンズホルダー３の前面よりも設定値Ｃ分前方に位置するように設定する。また、掃除穴７の後側の端が、レンズホルダー３を最も前方に移動させた場合の該レンズホルダー３の後面よりも設定値Ｃ分後方に位置するように設定する。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】

これにより、可動レンズ２ｂの前方の空間を掃除する際は、視度調節レバー５を作動させてレンズホルダー３を移動可能範囲の端である最も後方に移動させると、図６に示すように、可動レンズ２ｂの後方の空間は掃除穴７から露出せず、可動レンズ２ｂの前方の空間と外部との間に、前後方向に設定値Ｃの幅を持った掃除穴７を作り出すことができる。また、可動レンズ２ｂの後方の空間を掃除する際は、視度調節レバー５を作動させてレンズホルダー３を移動可能範囲の端である最も前方に移動させると、図７に示すように、可動レンズ２ｂの前方の空間は掃除穴７から露出せず、可動レンズ２ｂの後方の空間と外部との間に、前後方向に設定値Ｃの幅を持った掃除穴７を作り出すことができる。